

PICK UP

関東農政局栃木県拠点の取材日誌

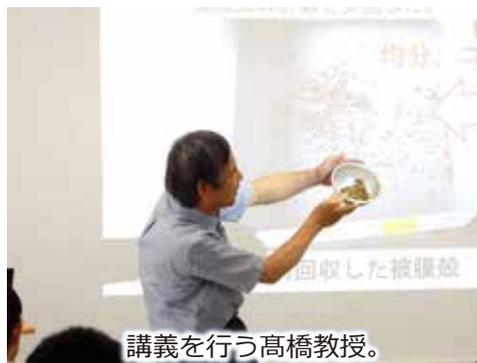
農高生が大学の最先端の研究内容を学ぶ

宇都宮大学農学部主催 アグリカレッジ

取材日：令和6年6月22日



アグリカレッジの講義の様子。



講義を行う高橋教授。



水田では、大学生から検証実験の説明を受けました。



農場の施設でも説明を受けました。

宇都宮大学が平成16年度から取り組んでいる「アグリカレッジ」は、栃木県内の農業高校（7校）の生徒を対象に、大学農学部への進学を目標としてもらうことを目的として、国立大学の先進的な研究内容等を学んでもらう高大連携の取り組みです。

令和6年度は全9回の講義日程が組まれ、取材当日は、第2回講義「農家にとって欠かせない化学肥料の今後」が、宇都宮大学農学部附属農場（栃木県真岡市）において開催されました。

受講者の高校2年生27名は、宇都宮大学の高橋行継教授から、「農業現場から出るマイクロプラスチックの問題から環境保全に貢献できる農業を考えてもらいたい」と、講義を受け、大学の水田では、担当の大学生から、現在行っている検証実験の説明を受けました。

受講した生徒達からは、「大学ならではの専門的な授業でした。農業の抱える環境問題の一つを知ることができました」「大学へ進学したい気持ちが強くなりました」と感想がありました。